

氏名	吉 原 英 介		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2452 号		
学位授与の日付	平成 4 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	子宮体癌に対する経腔走査超音波断層法とMRIの有用性について —筋層浸潤と頸部浸潤の評価—		
論文審査委員	教授 平木 祥夫	教授 大森 弘之	教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

昭和63年10月より平成3年3月の間に、岡山大学医学部附属病院産科婦人科にて手術を施行した子宮体癌29症例において、術前に経腔走査超音波断層法(TVUS)と磁気共鳴画像法(MRI)を施行した。一定のクライテリアに従い子宮体筋層浸潤と頸部浸潤を判定し、診断結果と提出子宮の組織学的所見を対比して、各々の診断法の有用性を比較検討した。

子宮体筋層浸潤は摘出子宮で23例(79%)に認められたがTVUSでは全例、MRIでは22例を推定できた。正診率はTVUS,MRIともに86%であった。筋層浸潤の程度は、筋層浸潤なし、1/2以下の筋層浸潤、1/2を越える筋層浸潤の3段階評価を行った。TVUS,MRIともに86%の適正評価率であった。

組織学的に1/2を越える筋層浸潤例での残存正常筋層最小幅の計測値および残存筋層最小幅/最大幅比は、TVUS,MRIともに他の2群と比べて有意に低値であった($p < 0.01$)。

頸部浸潤は摘出子宮で9例(31%)に認められたが、TVUS,MRIともに8例で推定できた。正診率はTVUS,MRIともに93%であった。

全ての項目で両診断法による判定結果に差異はなかった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は子宮体癌の筋層浸潤と頸部浸潤の評価に対する経腔走査超音波断層法と磁気共鳴画像法の有用性について臨床的に研究したものであるが、摘出子宮の病理学的所見と対

比検討した結果，両診断法による正診率，適正評価率はともに高く，有用性に差がないことを明らかにした価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。